勤務医部会だより

人間の設計寿命

吉原　基
（公立西知多総合病院）

私は外科医である。手術をしていて、45歳頃から急激に目が見えなくなり、老眼だと自覚した。先輩の外科医からは、こうなることを聞いていたが、いざ自分のこととなると、老いを感じざるを得なかった。

そんな時に考えたのが、人間の設計寿命である。外科の先輩のみならず、世の中の人たちがみんなこの年齢になると老眼になるということは、もともと神様は人間の設計寿命を50歳ぐらいと設定していたのではないかと思うようになった。

そう考えるといろいろなことの辻褄が合う。50歳を過ぎると女性は閉経を迎えるし、60歳を超えると癌患者が増える。これらも卵巣の設計寿命が50歳と考えると納得がいくし、細胞の設計寿命が50歳だとすれば、壊れて癌化する細胞が出現し、それが顕在化するのが60歳だとすれば説明がつく。

自動車にしろ、電化製品にしろ、同じ製品であっても設計寿命より早く壊れるものもあるし、長持ちするものもある。またそれは、使い方やどんな環境で使われたかによっても違うし、早くから壊れやすい部分と壊れにくい部分もある。こう考えると人間の体や動物の体に起きていることの説明がすべてつく。

私は特定の宗教を信じているわけではないし、むしろ無宗教だと思っている。ただ、人間も自然の一部だと思っているので、あえて言えば自然を信仰しているのかもしれない。火山が噴火すれば山の神が怒ったとか、地震が起きれば地球が怒ったなどと言うこともあるし、今回のコロナパンデミックも、あまりにも無茶苦茶をしている人間に対して自然が警鐘を鳴らしているのではと考えることがある。そういう意味では神様が決めた人間の設計寿命という考え方は、自分の宗教観にもマッチしているのかもしれない。

このような考えに至ってからは、人間は50歳過ぎたら、普段からの車検などのメンテナンス（健康診断）や修理（治療）が必要になるのが当たり前と考えるようになった。50歳になるころ、中学の同級生（医療関係者のいない）との飲み会で、この持論を話したことがあった。すると、食いつきが良く、みんなすごく納得してくれた。これはいけると思いそれ以降患者への説明にも時々使うようになった。

私は癌患者と接することも多く、「なんで癌になってしまったのだろう」という質問をよく受ける。そんな時は、「神様は人間を50歳ぐらいまで生きられるように設計したので、50歳あたりからいろいろと病気が出てきてもおかしくないし、それだけ長生きしたのだから、ここからは修理（治療）も必要になってくる」と伝えることがある。もちろん患者の精神状況を見て、落ち着いているときにしかこんな言い方はできないが、結構納得してくれる患者が多い印象だ。

人生100年時代と言われるが、そうだとすると設計寿命の２倍、メンテナンスをしながら体を持たせないといけないということになる。車でも20年乗ろうと思えば相当のメンテナンス費用がかかる。さらに言うなら、自動車はこの50年間で格段に進歩し、長く乗れるようになっているが、人間の体は進歩しているとは思えない。それどころか、使われる環境や使い方も、車は道路が整備され良くなってきているのに対して、人間の体はどんどん悪くなっているように思う。そんな中、メンテナンスや修理の技術（医療）の進歩は、車より人間の体の方が目覚ましく、コストも急激に増加している。だから、超高齢社会に医療費が莫大になるのは当たり前のことなのであろう。人生100年時代は、自然の摂理から考えれば無謀なことであり、日本中に走っている車を、乗用車に限らずバスやトラックまでも20年乗るつもりで、相当の覚悟を持って取り組んでいかなくてはならない。

私も、56歳になった今、とりあえず設計寿命までは無事壊れずに済んだようである。しかし、今までの生活を振り返ると、100年持たせるメンテナンスをしてきたとは到底思えない。今後は、しっかりとメンテナンスをしていかなくてはならないと思うし、また、いつ廃車になっても悔いのないよう生きたいものである。